

教材と「わたし」をつなぐ読みから自己を語る国語科授業づくり

国語科研究部

1 はじめに

昨年度までの本校の研究テーマ「〈他者〉を楽しみつつける子どもの育成」を継承しつつ、今年度の研究は、〈他者〉との学びによって意識化される自己に焦点を当てて研究を始めた。そこで、国語科では、教材を読むことを通して、主体である「わたし」がどのように対象とつながり、どのように自分の言葉で語るかということに迫る読みを追究することにした。

2 教材と「わたし」をつなぐ読みから自己を語る授業の実現に向けて

本研究テーマに迫るべく、学習者である「わたし」が教材とつながるためには、どのような教材を用いるかが重要だと考える。ローレン・ポロソフ（2025）は、「学習材を学ぶことは、生徒たちが、自分は誰であるか（アイデンティティ）を深く考えるだけでなく、自分たちが生きている場所（地域社会）や自分たちが生きている時代（現在）を深く考えることであるべき」と述べている。この考えを根底に授業を構想することで、学習者である「わたし」が自己を問いながら深く読み、〈他者〉と読みを交流する中で自己を語ることを目指した。

3 教材と「わたし」をつなぐための手立てと自己によって語られたことの概要

今年度の国語科の研究授業を例に、教材と「わたし」をいかにつないだか（手立て）、それによって何が語られたかについての概要を示す。

教材（授業学年）	実践者	教材と「わたし」をつなぐ手立て	学習者である「わたし」によって語られたこと
たぬきの糸車（1年）	山中	人物の動作化と対話	人物の動作からわかる心情や自己の解釈
ロボット（2年）	中田	あったらいいと思うロボットの提案	筆者の説明と自己の表現
ちいちゃんのかげおくり（3年）	羽島	人物へのメッセージと自分の感じ方	人物に寄り添った自己の思いと対象と主体の読後感の共通、

		の比較	相違
The Hiroshima Peace Roze（３年）	羽島	朗読の感想交流	人物の行動や心情の解釈と自己の思い
白いぼうし（４年）	山中	「なぞ」についての探究と対話	〈世界〉の仕組みについての自分の考え
ごんぎつね（４年）	山中	お悩み相談と手紙の交流	人物間のすれ違いについての自己の解釈
わたしにとっての平和（５年）	丸田	スピーチ構想と平和に対する考えの交流	学びや生活経験と自己の平和観
たずねびと（５年）	中田	複数の視点の読みによる交流	それぞれの人物、作者の意図をふまえた自己の解釈
やまなし（６年）	丸田	リライトと対話	自己の解釈と文学観
模型のまち（６年）	丸田	「物語る」ことから継承に対する考えの交流	物語ることの解釈と作者へのインタビューから構築された自己の平和観

４ おわりに

今年度の国語科の研究では、教材と学習者である「わたし」をつなぐ読みを行うことによって、学習者は何を語るかということを模索した。そのために、発達段階や教材の特徴を考慮し、教材と学習者をつなぐ手立てを構想し、実践授業を行った。これらの実践研究により、教材と「わたし」をつなぐ手立てを講じることでそれぞれの学習者は自己の読みを構築し、そこから学習者同士の対話が生まれ、その対話が活性化することで自己を語ることにつながる様相が見られた。ただし、自己の読みの構築から学習者同士の対話を活性化する際にも、授業者の授業づくりの工夫があり、個の学びと集団の学びのつなぎ方にも着目する必要がある。その際、単元やそれぞれの授業の中の「問い」が大きな役割を担っているのではないかと考える。そこで、今年度の研究をもとに、それぞれの学習者が自己の「問い」をもちつつ、自己の価値を創造していくかについて検証していきたい。

（文責 羽島 彩加）

【参考引用文献】

ローレン・ポロソフ，山元隆春・竜田徹・吉田新一郎/訳（2025）「ほんものの学びに夢中になる一関わりあい高めあう授業づくりー」北大路書房，9-25